

恵那市産業振興ビジョン検討部会ワークシート（工業部会）

分類	現状と課題	
	市の現状と課題の認識（マクロの視点）	委員の現状と課題の認識（ミクロの視点）
担い手	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生産年齢人口は 2030 年には現在から 5,300 人減少する。(28,000→22,700)</li> <li>●市内事業所数は減少傾向（全産業 2009 年 2,982→2016 年 2,655）</li> <li>●求人数については一定規模で推移しているものの、求職者数は年間約千人単位で減っている。(景気の回復も影響か)</li> <li>●企業の労働力の充足率は減少傾向。</li> <li>●市内企業の 88%が社員の不足・やや不足と回答している。</li> <li>●15 歳から 24 歳までの就学・就職による転出が多く、就学では転出先で就職する傾向が高い。大学生は地元に戻って来ない。</li> <li>●恵那・中津川地域の高等学校の市内就職率は 20%台で推移している。高校生充足率は求人数の増加により大きく減少。(H27 59.6% → H28 38.7%)</li> <li>●人口減少による労働力不足に対する対策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高卒の人材不足 <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業団地等の大手の企業に流れてしまう。大手思考。</li> <li>・現場の高校生が不足。</li> <li>・工業、商業などの専門高校の縮小。</li> <li>・高校生の希望する大学が近隣にない。</li> </ul> </li> <li>○大学生等の人材不足 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生等の採用活動時に寮の有無を聞かれる。住宅助成がほしい。</li> <li>・グローバル化、外国語に対応できる人材の確保。</li> <li>・大学生等の高学歴の学生が働く場所がない。</li> </ul> </li> <li>○人材不足（全般） <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年を 65 歳までとした時の助成があれば良い。</li> <li>・姉妹都市や求人倍率の低い市町との人事交流（企業説明会等の開催）。</li> <li>・新卒、中途問わず不足。労働人口の減少が要因。(都市で働いている人への地元勤務のアプローチ)</li> <li>・優秀な人材の不足。過疎化のイメージがマイナスか。</li> <li>・若手社員の不足。製造、施行分野。設計のみではなく現場もあるため敬遠される。</li> <li>・企業説明会の回数増。</li> <li>・窯業分野も人手不足。瑞浪市から社員が来ている。</li> <li>・専門業者不足により自社での対応による人手不足。</li> <li>・社員の高齢化により親の介護（通院）を理由にした休暇の増。病院への送迎バスの不足。</li> <li>・賃金を名古屋市と比較され、都市に流れる。</li> </ul> </li> <li>○外国人労働者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語を勉強できる場所の不足、PR不足。</li> <li>・外国人労働者は空き家を活用。</li> <li>・外国人労働者は中国人からベトナム人へ変わってきている。</li> </ul> </li> </ul>

産業の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域経済の状況は市外への流出が大きく域内で完結していない。(地域経済循環率 82.9%)</li> <li>●事業所数では卸売業・小売業が一番多く、次いで宿泊・サービス、製造業に続く。全国・県平均でみると製造業の割合が高い。</li> <li>●従業員数では製造業、卸売業・小売業の順で多く、全国・県平均と比較すると製造業の従業員数の比率が高い。</li> <li>●雇用者所得は総額では3次産業の所得が大きいが、特価係数で見ると2次産業のみ全国平均を上回る。</li> <li>●生産額・付加価値額・雇用者所得の特価係数で全国平均を超える産業は製造業で、その中でも産業分類の「パルプ・紙・紙製品製造業」「窯業・土石製品製造業」「プラスチック製品製造業」が大きい。</li> <li>●全産業において労働生産性が低く、全国平均を下回る。労働生産性を向上させる取組が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産学官の連携がない。</li> <li>○労働生産性が低い。</li> <li>○地場産業の衰退。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃業が多い。後継者不在、将来不透明が理由か。</li> </ul> </li> </ul>
製品・販路	<ul style="list-style-type: none"> <li>●調達先が市内企業ではない（見つからない）場合が多い。</li> <li>●近隣に大学が少なく産業連携が進んでいない。</li> <li>●販路開拓の支援が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内には調達先がない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門業者が市内には少なく他市に頼っている。</li> <li>・顧客が近くにいない。</li> </ul> </li> <li>○原料の確保、高騰。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源のリサイクルは地元で。</li> <li>・エネルギーコストの高騰。</li> </ul> </li> <li>○海外への販路拡大。生産拠点の移転もあり得る。</li> <li>○高付加価値製品の製造・販売 <ul style="list-style-type: none"> <li>・素材産業（サプライヤー）のみ。高付加価値のオリジナル製品の開発。</li> </ul> </li> </ul>
土地・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>●物流上の道路利便性は高い。</li> <li>●バス利便性が悪く通勤には使えない。</li> <li>●企業立地ニーズは高いが新たな事業用地がない。</li> <li>●工業用に利用可能な水（工業用水）は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交通アクセスに特徴がない <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪くはないが中津川、土岐と比べても特徴があるわけではない。</li> <li>・高速道路、国道等はあるが市街地のみ。周辺地の道路網は良くない。</li> <li>・特に恵那インター周辺の利便性が悪い。</li> <li>・公共交通機関の利便性が悪い。車がないと生活できない。</li> </ul> </li> <li>○企業誘致（工業団地）は労働者の取り合いとなるため、人を連れてくるような誘致の仕方。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援情報入手に便利な媒体がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補助金の申請が複雑、手間が掛かる。</li> <li>○働く側の意識変化。</li> </ul>